

令和4年度 牧之原市議会

文教厚生委員会視察研修報告書

視察日 令和5年1月18日（水）～ 1月19日（木）

視察先 ◇栃木県宇都宮市（子育て支援施策について）

◇東京都福生市（「共働き子育てしやすい街ランキング
2021」総合編5位（7年連続全国TOP10）を獲得した
取組について）

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 濱崎 一輝

研 修 名	令和4年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年1月18日(水)～1月19日(木)
研 修 先	(1) 栃木県宇都宮市 (2) 東京都福生市
研修の目的	(1) 栃木県宇都宮市：子育て支援施策について (2) 東京都福生市：「共働き子育てしやすい街ランキング2021」総合編5位（7年連続全国 TOP10）を獲得した取組について
<p>今回、我々文教厚生委員会の所管事務調査事項となっている「人口増加に繋がる魅力ある子育て施策について」子育て施策の先進地である、栃木県宇都宮市と東京都福生市への行政視察を行った。</p> <p>(1日目) 栃木県宇都宮市</p> <p>❖ 子育て支援施策について</p> <p>■ <u>共働き子育てしやすい街ランキング（総合編）について</u> 2021年：2位 2022年：5位 市をあげて子育てを最重要課題ととらえており、市独自の取り組みなどが高評価されての上位入賞である。</p> <p>(主な評価ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none">親や子どもの個々の状況に応じた包括的支援を行う「親と子どもの居場所づくり事業」子育て世代への経済的な補助 (高校生までの医療費を独自に無償化、ファミリーサポートセンターや病児保育のひとり親家庭に対する利用料助成、第3子以降の保育料や一時預かり事業利用料等の独自無料化)不妊治療に対する手厚い支援制度など <p>■ <u>総合計画について</u></p> <ul style="list-style-type: none">安心して出産・子育てができる環境が整い、次世代の「人づくり」が充実し、	

誰もが生涯にわたって主体的に学ぶことができる「子育て・教育の未来都市」の実現を目指している。

- 「子育て」を最重要課題ととらえ、第6次宇都宮市総合計画の第1の柱として『「子育て・教育未来都市」の実現に向けて』を位置づけ、各種施策を推進している。
- 子どもの年齢に応じたきめ細やかな事業が展開されており、支援を必要とする方（家庭や子どもなど）の早期発見に力をいれているのが印象的であった。
 - ① 子ども・若者の健全育成環境の充実
 - ② 子どもを守り育てる支援の充実
 - ③ 結婚の希望をかなえる支援の拡充
 - ④ 安心して妊娠・出産できる環境の充実
 - ⑤ 子育て支援の充実

■ 親と子どもの居場所づくり事業について

親の子育ての負担を軽減させるとともに、子どもの前向きな気持ちや生きる力を育む「親と子どもの居場所」を開設。

個々の状況に応じて包括的に支援する場を提供することを目的とし、関係性の貧困（経験不足）を補い親子でいろいろな体験ができるのが魅力的であった。

■ ゆうあいひろばについて

従来からあった施設の老朽化に伴い、子どもへの様々な遊びの機会や子育て支援機構などを一体的に提供できる施設へと改修。

子どもの健全育成の中核的な施設としてリニューアルし、親子づれや幅広い年代層の子どもたちに利用されている。

■ 赤ちゃんの駅について（授乳の場、おむつ替えの場）

子育て家庭の外出しやすい環境づくりや利用者の利便性の向上を図るとともに、官民協働の取り組みとすることで、社会全体で子育てを支援する意識の醸成を図るといふもの。

事業開始時には、協力を依頼する民間企業（登録事業所）へ戸別訪問し、補助金を活用しながら協力店を増やしていったが、今では民間企業側から設置の問い合わせもあり、登録施設は年々増加している。

■ 子育て環境のプロモーションについて

市内向けと市外向けに分けて市の広報活動を展開。媒体は従来からある紙媒体（広報誌、ポスター、チラシ等）に加え、CM動画やインターネット広告、交通広告などを展開し、子育て世代をターゲットに絞り、移住・定住を視野に入れた取り組みに力を入れている。

■ 移住・定住について

移住相談件数は、令和2年度の55件から令和3年度は166件と3倍に増加。実際の移住世帯は64世帯で、その内19世帯が子育て世帯である。（全体の約3割程度）

その要因は定かではないが、民間企業のテレワーク推進や子どもが就学するタイミングで、UターンやJターンする世帯が多い印象である。

また、共働き子育てしやすい街ランキングの結果を知り、様々な子育て施策の取り組みを評価して、移住した数世帯もある。

■ 補助金制度について

（妊娠・出産）

- 不妊治療費助成制度

不妊治療の保険適用化に伴い市独自の治療費助成制度を創設

- 妊産婦医療費助成

ママが病気やケガなどで治療を受けた場合の負担額を助成

（子育て）

- こども医療費助成

高校3年生相当までのお子さん全員が県内医療機関の窓口負担が0円

- 保育料の減免

- ・ 0～2歳児の保育料軽減
- ・ 3～5歳児や第3子以降の保育料の無償化
- ・ 第3子以降などの副食費等の軽減や一時預かり事業利用料の無償化

- 多子世帯支援事業

第3子以降の「一時預かり事業」や「ファミリーサポートセンター事業」利用料全額を助成

（まとめ）

「子育て」を最重要課題ととらえており、多義に渡る子育て事業に取り組み「子育て・教育未来都市」の実現に向けて、市全体で子育て施策を推進しているのがよく分かった。

子どもの年齢に合わせた多種多様な施策が、その時々で受けられるのが魅力的である。官のみではできない事業も民間との連携（官民連携）により、いろんな場所で受けられることで、市民への満足度向上や、移住者の増加に繋がっているのではないかと感じた。

(2日目) 東京都福生市

- ❖ 共働き子育てしやすい街ランキング 2021」総合編 5位（7年連続全国 TOP10）を獲得した取組について

■ 「子育てするなら ふっさ」とは

平成 14 年度をピークに（62, 503 人）人口減少が始まり、危機感を持ち五つの元
気（5G）の推進を始めた。（平成 21 年～24 年度までに 133 事業を推進）

※5G とは…

「子育てが元気」「お年より・障がい者が元気」「教育が元気」「まちが元気」「ス
リムな市役所が元気」

平成 25 年には、人口減少を背景に子育て世帯の流出が進み「まちづくり総合活
性化研究」を実施し、「定住化施策（新 5G）」を策定。

※新 5G とは…

「住宅」「福祉保健」「教育」「生活安全」「産業・観光」

そして、スローガンとして「子育てするなら ふっさ」が選定

■ 7年連続全国トップ 10 入り（全国唯一）

さまざまなジャンルから体系的に子育て支援策に取り組んだ結果、ランキング
の常連になる。

- 「子育てするなら ふっさ」のスローガンで職員の意識変革
- 保育園の待機児童が 7 年連続ゼロ。保育の質も最高レベル
- コンパクトシティの強みでスピードを生かした施策
- 市役所がコンパクトなので意思決定が早く、市内の様々な担い手も顔なじみのため調整が早い。

■ 子ども・子育て関係事業（特徴的な事業）

- 多様な担い手との強固な連携
- 子育て支援カード事業（令和 5 年度からデジタル化）
- 医療的ケア児を全保育園で受け入れ可能に（市内の園は全て私立保育園）
- 子育て世帯応援 総額 1 億円キャッシュバック事業
- コンパクトな市役所ならではの綿密な連携
- 学童クラブと放課後子ども教室の一体的事業
- 子育て支援住宅整備助成事業
- 赤ちゃんはじめて絵本事業

■ 子ども・子育て関係事業（DX 編）

- 若者世代をターゲットにした ICT の活用

- ・学童クラブ入所のオンライン申請開始（令和4年11月）
- ・予防接種、子育て健康ナビ
- ・ぴったりサービスの早期運用開始
- ・ **かゆいところに手が届くサービス**
- ・タブレットによるテレビ電話多言語通訳サービス（人がやっている）
- ・LINEで24時間対応可能なチャットボット導入
- ・市内全保育園のICT化による登降園の簡素化、保護者のスマートフォンとの連携

■ 子ども・子育て関係事業（教育編）

- ・ **地域総がかりで、学校教育を推進**
- ・市内全校でコミュニティスクール実施（平成31年度）
- ・市内私立幼稚園、保育園と小学校との連携
- ・小中一貫教育の推進
- ・ **いつでも どこでも 何度でも iPad**
- ・児童、生徒一人1台のiPad(LTE 端末)の貸与 自由に持ち帰りで使用
- ・小中学校全教室に電子黒板、大型ディスプレイを配備

■ 「子育てするなら ふっさ」のPR強化

・ **動画を積極的に活用**

コロナ禍の影響で園の見学ができない入園希望者向けに「保育園見学動画」を作成。また、子育てには欠かせない保育士を確保するために、「保育士するなら ふっさ」の動画を作成。

・ **スマホに特化した特設サイト「こふくナビ」**

市のホームページはスマートフォン使用ではないため、職員の有志で立ち上げたプロジェクトチームによりスマホ専用サイトを手作りで作成。

・ **若年女性の比率上昇**

保育所定員増などの子育て支援策や駅前再開発などが追い風となり、若年女性の比率上昇。

■ 今後の展開

・ **今後のこども施策の「司令塔」**

こども家庭庁設置法、こども基本法、子どもの権利条約、都の「チルドレンファースト」等に基づき、子どもの権利や意見を尊重し、子どもを中心とした、子ども目線の施策に重点を置く「こどもまんなか ふっさ」の実現を目指していく。

※子ども政策課設置（令和5年4月）

◎「子育てするなら ふっさ」と「こどもまんなか ふっさ」の両立

- ・ 「福生市子ども・子育て支援事業計画」の見直し
- ・ 「福生市こども計画（仮）」策定
- ・ こども議会

- ・青少年意見発表大会
- ・学童クラブ、児童館における「こども会議」
- ・こども食堂事業など

(まとめ)

人口も我が市に近く、コンパクトシティの強みが生かせる事業がいくつか見受けられた。

中でも興味が引かれたのは、市内私立幼稚園、保育園と小学校との連携である。小中学校との連携は、中 1 ギャップ問題解消のために多くの自治体で取り組んでいる事例はあるが、このようなケースはまだ少ないと思う。

委員会が設置され、定期的に教育委員や幼稚園・保育園の先生、小学校（1年生担任）の先生との情報交換が行われているとのことで、発達段階の遅れや問題行動の抑止などにも繋がり、とてもよい取り組みであると感じた。

(総括)

「人口増加に繋がる魅力ある子育て施策について」子育て施策の先進地である 2 市への行政視察を通して感じことは、共に子育ての街として子育て世代にターゲットを絞った戦略的な市の PR をしていることだ。

その前提として、両市ともに子育て施策にかなりの事業費をかけ力を入れており、全庁体制で取り組んでいるからこそ、そこまでの PR ができているのだと感じた。

今回の視察での学びを委員会内で情報共有しながら、政策提言に結び付けていきたい。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 村田 博英

研 修 名	令和4年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年1月18日(水)～1月19日(木)
研 修 先	(1) 栃木県宇都宮市 (2) 東京都福生市
研修の目的	(1) 栃木県宇都宮市：子育て支援施策について (2) 東京都福生市：「共働き子育てしやすい街ランキング2021」 総合編5位（7年連続全国 TOP10）を獲得した取組について
<p>(1) 宇都宮市：子育て支援について 人口52万人の都市であるが切れ目のない細やかな子育て支援施策を行っていると感じた、特に子供の居場所づくり事業やゆうあいひろばにおける中身について子供の育成を念頭に年齢や身体的・精神的成長などに応じた効果的な道具を導入し健やかな創造性の育成が図られるよう工夫がされている、バスケの町ならではのゲームも作られている、建設中の当市の多目的体育館にも応用できればと思った。</p> <p>(2) 福生市：子育てするならふっさ、 加藤育男市長の強いリーダーシップのもと職員が奮起し少子高齢化の町を復活させるべく施策に取り組んでいるとのこと、そのかいもあってか若年女性が増加傾向にある、「子育てするならふっさ」のキャッチが良い本誌も参考にしたい。 JR 中央線福生駅から東京都心まで40キロ以内という地の利を活かし慶応大学と連携し子育て支援の施策を評価してもらったりアドバイスをもらっているとのこと、大学のない本市ハイナン地方としてなんとも羨ましいと感じた、福生市は子育て支援だけではなく移住施策としても手を打っており未来を感じさせる、また財政面でも横田基地は国と自衛隊が管理しており手間はかからないが国有提供施設所在地交付金20億円が助成されている、先立つものは金という訳で財政がしっかりしていないと施策はあっても動けない、参考になった</p>	

宇都宮市の視察が終了して屋外に出た際、バス乗り場付近にデザインの良い貸出のできる電動キックバイクが数台置かれていて宇都宮市のセンスを感じました。

二日目の視察先は、東京都福生市議会事務局です。福生市は、東京都の中心部から西へ約40Kmの位置にあり、米軍の横田基地は全国的に知られた地域です。人口規模では、牧之原市より約12,000人多く、本市と大きく違った点では、横田基地もあることから、多文化人の非常に多い市となります。

視察を決めた理由としては、「共働き子育てしやすい街ランキング」（日本経済新聞社実施）2021年度で、5位となります。残念なことに2022年度では31位の後退となりますが、7年間連続してランキングトップ10という他市には無い唯一の実績が、今回の視察理由です。ご対応いただいた職員の方は、議会事務局長、子ども家庭部長、子ども育成課長、子ども家庭支援課長、企画財政部企画調整課長、の皆さんでした。福生市の子育て支援事業施策に取り組んだ結果ランキングの常連に至った経緯と今年度のランキング結果の分析と今後についての取り組む内容もお聞きしました。これまでの子育て支援事業「子育てするなら ふっさ」240事業の見直しと、今後の「こどもまんなか ふっさ」のスローガンを両立させて福生市こども計画（仮）」の策定中との説明をお聞きしました。子ども家庭支援課長のお話では、「こども目線」に立った取組に力を入れていると感じました。どうしても事業の中では、大人目線になることに注意しなければならないと感じました。これまでの子供支援事業の取組で感じたことは、子育ての手助けとしての「ファミリーサポートセンター」の需要より、「産後ケア事業」の需要が多い事でした。専門スタッフの充実が利用者の多い要因と考えられます。専門スタッフの育成と多文化人の多い福生市では、有料化しても利用者が望んでいます。専門スタッフも現状として十分な職員の補充が課題として抱えています。牧之原市もこうした専門スタッフの充実が、カギと感じました。また、牧之原市民が子育て支援事業に期待する事業の確立を「こども目線」で取り組み、より良い牧之原市を目指したいと強く感じました。最後に今回の視察にあたり、コロナ禍の厳しい現状の中、ご尽力いただきました。牧之原市議会事務局および、福祉子ども部長、子ども子育て課長の皆様に感謝申し上げます。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 加藤 彰

研 修 名	令和4年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年1月18日(水)～1月19日(木)
研 修 先	(1) 栃木県宇都宮市 (2) 東京都福生市
研修の目的	(1) 栃木県宇都宮市：子育て支援施策について (2) 東京都福生市：「共働き子育てしやすい街ランキング2021」総合編5位（7年連続全国 TOP10）を獲得した取組について
<p>(1) 宇都宮市 選定の主な理由</p> <p>1つ、「子育て」を最重要課題としてとらえ、第6次総合計画において第1の柱として「子育て・教育の未来都市」の実現を目指していることと、あと、共働き子育てしやすい街ランキングで上位にいること（2020年16位、2021年2位、2022年5位 日本経済新聞社と日経BP社「日経 xwomanDUAL」が実施）。</p> <ul style="list-style-type: none">● 市の状況<ul style="list-style-type: none">・面積：416.85平方キロメートル、人口：515,141人（R4.12.1現在）、世帯別：234,873世帯（R4.12.1現在）、財政：R3年度一般会計 歳入：2,592億4,211万円、歳出：2,491億5,878万円● 説明 子ども部未来課係長ほか <p>ランキングにおいて重視された項目、評価の観点、宇都宮市が評価された点などの説明とともに、総合計画基本施策1、施策の体系（1）～（5）から主な事業として、子どもの居場所づくりの推進、子どもの貧困対策の充実（「関係性の貧困」の解消）、子育て環境プロモーションの実施などについて説明を受けた。この中で、①「親と子どもの居場所づくり事業」では、家庭ごとに支援計画・支援記録を作成して伴走支援を実施していることは特徴的な点であり、効果としては、不登校の子どもも来ていることなどを挙げていた。同事業は、市内5箇所で開催（R2.9月～モデル事業2か所、R4.4月～本格実施で順次5か所に拡大）。また、事業費用は、1施設当たり（継続）10,431千円（4～3月）、1施設当たり（新規）6,321千円（9～3月）。※支援対策児童等見守り強化事業（厚労省）国2/3（上限1か所あたり9,723千円）。②「ゆうあいひろば」は、子どもの健全育成の中核的な施設の位置付け。施設は「子どもたちのあそび広場」「ファミリーサポートセンター」「一時</p>	

預かり保育」「青少年エリア」「カフェエリア」で構成。R3.9月～R4.3月改修（概算事業費：約2億円）。その背景は、子どもを取り巻く社会環境の変化への的確な対応と、本市への愛着や誇りの醸成を図る「人づくり」が必要とのこと。改修のコンセプトでは、4点ほど、その一つ、「多世代が遊べる遊具の設置」では、ユニバーサルデザインの視点を重視。③「子育て環境のプロモーション」は、市内と市外向け広報の二つのプロモーション実施。市内向けでは、高校生など若い人の意見に加え、市の若手職員らの意見を聴き、リーフレットなど作成。市外向けでは、20～30代の東京圏への流出が著しいことを踏まえ、テレビCMやインターネット広告など実施している。

（2）東京都福生市 選定の主な理由

「共働き子育てしやすい街ランキング2021」5位（日本経済新聞社当実施）や、「ベビー&バースフレンドリーアワード」を獲得と、子育て支援施策を体系的に推進していること。

● 市の状況

・面積：10.16平方キロメートル、人口：56,201人（R5.1.1現在）、世帯数：30,380世帯（R5.1.1現在）、財政：R3年度一般会計 歳入：298億296万円、歳出：282億9,377万円

● 説明 子ども福祉部長、子ども育成課長ほか

2022年度は31位にランク下げる。その理由の一つに男性職員の育児休暇取得率の低さが原因。人口減少の背景に、子育て世帯の流出あり。その対策を主に、定住化施策 新5G（ジャンル→住宅、福祉保健、教育、生活安全、産業・観光）を推進。今後の展開では、こども家庭庁設置法などに基づき子ども目線の施策に重点を置き、「市子ども・子育て支援事業計画」の見直し、「市こども計画（仮）」策定を進める。また、「産前・産後支援ヘルパー事業」と、「市ファミリーサポートセンター」、「市産後ケア事業」の説明を受けた。

（3）感想等

・両市は「子育て」を最重要課題と捉え、市の重点施策に子ども支援を位置付け、予算配分を大きくしている。加えて、事業担当各課と企画・財政部門との連携強化が図られていることなどにより、事業推進が着実に進められていると感じた。

・宇都宮市の取組で「関係性の貧困」の解消のため、親と子どもの居場所づくり事業を位置付けている。この事業は早期支援の場とし、早期把握の場としては、子育てサロン（12か所）、子育て支援事業（56か所）、放課後子ども教室（55か所）を実施。さらには専門的支援のため、要支援児童健全育成事業（2か所）を実施。これらが居場所の全体像となるが、子ども支援と同時に親への支援も重視していることが高く評価できるものとする。

・福生市の取組で、育児や家事援助などが必要な妊婦、産後ママがいる家庭への「ヘルパー派遣」をH27年度から実施している。また、子どもの権利や意見を尊重し、子ども目線の施策を重点に今後は展開するとのこと。これら特に参考としたい。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 石山 和生

研 修 名	令和4年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年1月18日(水)～1月19日(木)
研 修 先	(1) 栃木県宇都宮市 (2) 東京都福生市
研修の目的	(1) 栃木県宇都宮市：子育て支援施策について (2) 東京都福生市：「共働き子育てしやすい街ランキング2021」 総合編5位（7年連続全国 TOP10）を獲得した取組について
<p>今回、一番重要な政策であると考えたのは、子供と親の居場所づくり事業である。宇都宮はNPOに任せるといって運営しており、そのNPOも他にメイン事業があるため、どうにか運営できているというのが現状だと理解した。これは、どういうことかといえば体力のあるNPO団体が市内にいるということである。規模が小さい牧之原市ではこれをそのまま真似することは難しいであろうと感じた。明石市のように個人も参画できる子ども食堂というのが、現状一番可能性があり、ぜひ次の視察は明石市に行きたい。</p> <p>次に屋内公園についてである。こちらに関しては、市民からの要望が大きいものではあるが、運営費が800万くらいと記憶している。道の駅は1000万で運用すると聞いているので、そんなに高い金額ではないと思うが、今後どうなるか注視していく。</p>	